

半分

半分

2年では、 $\frac{1}{2}$ や $\frac{1}{4}$ や $\frac{1}{8}$ の簡単な分数を扱います。 $\frac{2}{4}$ や $\frac{3}{8}$ などは3年の内容になります。2年では、分数について理解する上で基盤となる素地的な学習活動を行います。そのために、折り紙やテープなどを用いて、 $\frac{1}{2}$ や $\frac{1}{4}$ や $\frac{1}{8}$ の大きさをつくることを大切にします。

日常の場面では、トーストやケーキを半分にすることはよくあります。こうした普段の生活の中でおこる活動を取り上げ、半分の大きさの意味をつかませるようにしましょう。

具体物を使って実演する場合には、半分ではないように切った場合も実演して、半分の意味をつかませるのもよいでしょう。

半分でない例



ピザトーストを 半分に 分けます。



ケーキを 半分に 分けます。



おこのみやきを 半分に 分けます。



実際には、自分たちで長方形や正方形や円の形の紙を使って、半分の大きさのいろいろな形をつくる活動をさせ、半分の意味を理解できるようにします。このとき、「正方形」「長方形」という用語は学習済みであるので、できるだけ使っていくようにしますが、まず、正方形や長方形の定義を復習させておきたいところです。

- 正方形……角がみんな直角で、辺の長さがみんな同じ四角形
- 長方形……角がみんな直角になっている四角形

「円」という用語については、3年の学習内容なので、「丸」という表現を使うようにしましょう。

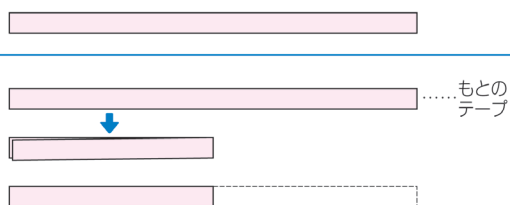
正方形や長方形を半分にした形を発表させる場合には、その作り方も発表させるようにし、本当に大きさが半分になっているかを確認しましょう。半分にした形で、長方形や直角三角形は既習ですが、二等辺三角形は未習です。

分数の導入

分数の導入

分数の導入では、分数の意味を実感的にとらえさせるために、テープを用いています。実際にテープを準備して、半分の操作や4等分の操作や8等分の操作を行い、分数の意味をつかませるようにするとよいでしょう。

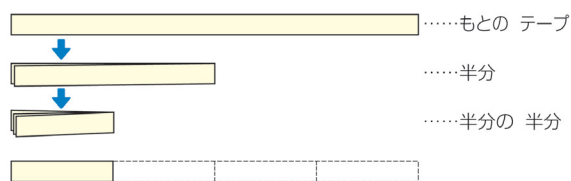
- 2 下のような テープを おって 半分の 大きさを つくりましょう。



もとの 大きさを 同じように 2つに 分けた 1つ分を、もとの 大きさの $\frac{1}{2}$ の一と いい、 $\frac{1}{2}$ と かきます。

$$\frac{1}{2}$$

- 5 テープを 半分に おって、また、それを 半分に おった 大きさを つくりましょう。



もとの 大きさを 同じように 4つに 分けた 1つ分を、もとの 大きさの $\frac{1}{4}$ の一と いい、 $\frac{1}{4}$ と かきます。

$\frac{1}{2}$ や $\frac{1}{4}$ のような 数を 分数 と いいます。

テープを半分にすると、さらに半分にすると、全体は4等分されていることや、 $\frac{1}{4}$ の大きさをさらに半分にすると、全体は8等分されていることを確認しましょう。このことを逆に見て、 $\frac{1}{2}$ の2つ分や $\frac{1}{4}$ の4つ分は、もとの大きさになることも確認したいところです。

分数指導の留意点として、何をもとにしての $\frac{1}{2}$ なのかという「もとにするもの」をはっきり言わせることを大事にし、「もとのテープの $\frac{1}{2}$ 」のように言わせることが大切です。

ここで初めて分数のよみ方とかき方を学習します。分数のかき順を間違えて覚える児童がいるので、一斉にかき順を練習するようにしましょう。

$$\frac{1}{2}$$